

14時30分解禁

平成30年9月 全国百貨店売上高概況

平成30年10月23日

I. 概況

1. 売上高総額	4,197億円余
2. 前年同月比	-3.0% (店舗数調整後/3か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	79社 219店 (平成30年8月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,499,553㎡ (前年同月比:-3.4%)
5. 総従業員数	68,327人 (前年同月比:-4.5%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	2-4月 0.0%、3-5月 -0.4%、4-6月 0.6%、 5-7月 -1.9%、6-8月 -1.3%、7-9月 -3.4%

[参考] 平成29年9月の売上高増減率は4.0% (店舗数調整後)

【特徴】

9月の売上高は、2度の台風上陸や北海道胆振東部地震などの度重なる自然災害により、多くの店舗で休業や営業時間の短縮を余儀なくされたことが響き3.0%減となった。

顧客別では、国内市場(シェア94.1%/3.5%減)が3か月連続でマイナスとなったが、インバウンド(シェア5.9%)は、台風による関西空港一時閉鎖の影響を受けた大阪を名古屋や福岡等他地区が補う形で、6.3%増の約246億円と22か月連続でプラスした。

地区別では、10都市が2.5%減とマイナスに転じた。3地区(東京、横浜、福岡)は前年をクリアしたが、台風や地震の影響を大きく受けた大阪(4.1%減)・札幌(11.1%減)等7地区で対前年減となった。地方(10都市以外の地区)は4.1%減と前月(3.0%減)からマイナス幅を広げた。

商品別では、雑貨が0.6%増と22か月連続プラス。秋のメイクアップやスキンケアが人気で国内外共に堅調な化粧品(1.8%増)と、高級腕時計が引き続き好調な高額商材(美術・宝飾・貴金属/1.0%増)が牽引した。衣料品(5.4%減)は中旬以降の気温低下でコート等の秋冬物に動きが見られたが前年実績には届かず、身のまわり品(1.9%減)も雨の多い天候を背景にレインシューズや雨傘など一部商材が動いたものの、2か月ぶりにマイナス転換した。食料品は一部の地区で回復の兆しを見せたが、自然災害による集客減や商品の入荷が不安定になるなどの影響から、全国ベースでは減収傾向が続く(2.2%減/16か月連続マイナス)結果となった。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「9月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇東・西日本では、曇りや雨の日が多かったため、日照時間はかなり少なく、降水量はかなり多かった。また、台風第21号と第24号により、広い範囲で暴風や大雨による被害が発生した。

(2) 営業日数増減 29.3日(前年同月比 -0.5日)

(3) 土・日・祝日の合計 12日(" +2日/土曜・日曜各1日増)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数120店舗)

①増加した：26店、②変化なし：37店、③減少した：57店

(5) 9月歳時記(敬老の日、彼岸)の売上(同上/有効回答数83店舗)

①増加した：8店、②変化なし：47店、③減少した：28店

全国百貨店 売上高速報 2018年09月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	419,751,186	100.0	-3.0 (-3.1)
10都市	298,472,274	71.1	-2.5 (-2.0)
札幌	10,668,863	2.5	-11.1
仙台	5,414,644	1.3	-1.2
東京	118,835,167	28.3	0.3
横浜	25,960,213	6.2	1.3
名古屋	27,367,016	6.5	-0.2 (-4.1)
京都	16,961,388	4.0	-6.7
大阪	58,610,850	14.0	-4.1
神戸	9,872,588	2.4	-32.2 (-7.7)
広島	9,060,103	2.2	-5.9
福岡	15,721,442	3.7	5.7
10都市以外の地区	121,278,912	28.9	-4.1 (-5.8)
北海道	1,360,209	0.3	-0.7
東北	5,844,203	1.4	-4.2 (-8.5)
関東	54,475,348	13.0	-3.4 (-8.2)
中部	9,376,276	2.2	-3.7 (-4.1)
近畿	15,304,637	3.6	-11.4 (-5.1)
中国	9,483,769	2.3	-2.0
四国	6,400,301	1.5	-2.9
九州	19,034,169	4.5	-2.2

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	419,751,186	100.0	-3.0 (-3.1)
紳士服・洋品	24,856,430	5.9	-3.6 (-3.9)
婦人服・洋品	84,385,796	20.1	-5.4 (-5.8)
子供服・洋品	8,738,254	2.1	-5.8 (-5.8)
その他衣料品	8,575,054	2.0	-10.3 (-11.4)
衣 料 品	126,555,534	30.2	-5.4 (-5.9)
身のまわり品	58,080,532	13.8	-1.9 (-2.0)
化粧品	45,076,100	10.7	1.8 (1.8)
美術・宝飾・貴金属	27,911,526	6.6	1.0 (0.6)
その他雑貨	15,878,319	3.8	-3.3 (-2.1)
雑 貨	88,865,945	21.2	0.6 (0.7)
家 具	4,726,240	1.1	-1.1 (-1.8)
家 電	690,710	0.2	-33.1 (-33.2)
その他家庭用品	11,877,704	2.8	-9.6 (-9.8)
家 庭 用 品	17,294,654	4.1	-8.8 (-9.1)
生 鮮 食 品	21,084,345	5.0	-3.7 (-3.5)
菓 子	26,484,511	6.3	-2.2 (-2.0)
惣 菜	25,819,964	6.2	-1.7 (-1.1)
その他食料品	31,208,729	7.4	-1.6 (-2.0)
食 料 品	104,597,549	24.9	-2.2 (-2.1)
食 堂 喫 茶	11,468,751	2.7	-5.8 (-6.3)
サ ー ビ ス	4,417,821	1.1	-5.8 (-6.8)
そ の 他	8,470,400	2.0	-0.9 (-1.6)
商 品 券	7,270,368	1.7	-6.6 (-8.7)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

NEWS LETTER

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | －2.5% (店舗数調整後／2か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －4.1% (店舗数調整後／17か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	－2.5	－1.8	2か月ぶりマイナス
札幌	－11.1	－0.3	2か月ぶりマイナス
仙台	－1.2	0.0	2か月ぶりマイナス
東京	0.3	0.1	2か月連続プラス
横浜	1.3	0.1	2か月連続プラス
名古屋	－0.2	0.0	2か月ぶりマイナス
京都	－6.7	－0.3	2か月ぶりマイナス
大阪	－4.1	－0.6	2か月ぶりマイナス
神戸	－32.2	－0.8	13か月連続マイナス
広島	－5.9	－0.1	3か月連続マイナス
福岡	5.7	0.2	2か月連続プラス
10都市以外の地区	－4.1	－1.2	17か月連続マイナス
北海道	－0.7	0.0	2か月ぶりマイナス＊
東北	－4.2	－0.1	13か月連続マイナス＊
関東	－3.4	－0.4	3か月連続マイナス
中部	－3.7	－0.1	3か月連続マイナス
近畿	－11.4	－0.4	19か月連続マイナス
中国	－2.0	0.0	6か月連続マイナス＊
四国	－2.9	0.0	2か月ぶりマイナス
九州	－2.2	－0.1	2か月ぶりマイナス＊

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が22か月連続のプラスとなった。また、衣料品が3か月連続、食料品が16か月連続、家庭用品が33か月連続、身のまわり品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が42か月連続、美術・宝飾・貴金属が3か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-3.0	-	3か月連続マイナス
紳士服・洋品	-3.6	-0.2	3か月連続マイナス
婦人服・洋品	-5.4	-1.1	3か月連続マイナス
子供服・洋品	-5.8	-0.1	3か月連続マイナス
その他衣料品	-10.3	-0.2	35か月連続マイナス
衣料品	-5.4	-1.7	3か月連続マイナス
身のまわり品	-1.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
化粧品	1.8	0.2	42か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	1.0	0.1	3か月ぶりプラス*
その他雑貨	-3.3	-0.1	3か月連続マイナス*
雑貨	0.6	0.1	22か月連続プラス
家具	-1.1	0.0	2か月ぶりマイナス
家電	-33.1	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-9.6	-0.3	30か月連続マイナス
家庭用品	-8.8	-0.4	33か月連続マイナス
生鮮食品	-3.7	-0.2	54か月連続マイナス*
菓子	-2.2	-0.1	10か月連続マイナス*
惣菜	-1.7	-0.1	12か月連続マイナス*
その他食料品	-1.6	-0.1	6か月連続マイナス*
食料品	-2.2	-0.5	16か月連続マイナス
食堂喫茶	-5.8	-0.2	17か月連続マイナス
サービス	-5.8	-0.1	10か月連続マイナス
その他	-0.9	0.0	5か月連続マイナス
商品券	-6.6	-0.1	91か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成30年9月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年10月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1,188億円余
2. 前年同月比	0.3% (2か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭0.4%(91.5%)：非店頭－1.7%(8.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年8月対比±0店)
5. 総店舗面積	841,407㎡ (前年同月比：－0.3%)
6. 総従業員数	17,726人 (前年同月比：－2.4%)
7. 3か月移動平均値	2-4月 0.8%、3-5月 1.0%、4-6月 3.4%、 5-7月 1.0%、6-8月 1.1%、7-9月 －1.2%

〔参考〕平成29年9月の売上高増減率は4.6%

【特徴】

- (1) 9月の東京地区は台風などによる影響を受けながらも、各社が展開した物産催事、カード会員やインバウンド向け施策などが奏功。改装効果により大幅な客数増や、新規顧客の取り込みが見られた店舗もあり、入店客数は11か月連続プラスの3.5%増。秋を打ち出した食品や雑貨、ファッションなどの企画も人気で、売上高は2か月連続プラスの0.3%増となった。
- (2) 商品別では、雑貨が22か月連続プラス(2.4%増)。国内外ともに好調な化粧品は、秋のコスメフェア、WEBやSNSのタイアップ企画も好評で42か月連続増。その他雑貨も、趣味性の高い商品が動いた他、一部店舗で外商特需もあり10か月連続プラス。
- (3) 食料品は、前月より1.4ポイントアップし2か月連続プラス(2.3%増)と増勢。生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品ともに対前年増となった。秋商材の季節菓子や、敬老の日をはじめとしたパーティや集いの場用として惣菜も好調であった。
- (4) 衣料品は、気温の低下に伴いコートやブルゾンなど秋冬物アウターやジャケット、スーツ、ワンピースなどが動き、前年並み(0.2%減)。紳士服・子供服は前年をクリアした。
- (5) 身のまわり品は、雨傘などレイングッズやブーツ、スポーツシューズ、ラグジュアリーブランドのバッグは堅調であったが、一部改装工事による売場面積縮小の影響もあり、前年には届かなかった(0.4%減)。
- (6) 10月中間段階の商況は、4.2%減(10/16)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数19店舗)
 - ①増加した：7店、②変化なし：8店、③減少した：4店
- (3) 9月歳時記(敬老の日、彼岸)の売上 (同上／有効回答数12店舗)
 - ①増加した：1店、②変化なし：8店、③減少した：3店

東京地区百貨店 売上高速報 2018年09月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	118,835,167	100.0	0.3
紳士服・洋品	8,857,372	7.5	1.2
婦人服・洋品	21,558,628	18.1	-0.3
子供服・洋品	2,214,304	1.9	1.1
その他衣料品	2,107,297	1.8	-4.8
衣 料 品	34,737,601	29.2	-0.2
身のまわり品	17,471,636	14.7	-0.4
化粧品	14,356,339	12.1	4.1
美術・宝飾・貴金属	8,712,306	7.3	-1.3
その他雑貨	5,371,328	4.5	4.2
雑 貨	28,439,973	23.9	2.4
家 具	1,629,344	1.4	1.9
家 電	430,502	0.4	-40.1
その他家庭用品	3,218,049	2.7	-8.5
家 庭 用 品	5,277,895	4.4	-9.5
生 鮮 食 品	4,020,000	3.4	1.9
菓 子	6,764,312	5.7	2.8
惣 菜	6,063,966	5.1	1.6
その他食料品	8,726,428	7.3	2.5
食 料 品	25,574,706	21.5	2.3
食 堂 喫 茶	2,713,025	2.3	-5.9
サ ー ビ ス	1,852,729	1.6	-4.8
そ の 他	2,767,602	2.3	0.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	1,817,028 千円	0.2
従 業 員 数	17,726 人	-2.4
店 舗 面 積	841,407 m ²	-0.3

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

NEWS LETTER

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が22か月連続、食料品が2か月連続のプラスとなった。また、衣料品が3か月連続、身のまわり品と家庭用品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が42か月連続、その他雑貨が10か月連続、子供服・洋品、家具、惣菜、その他食料品が2か月連続、紳士服・洋品、菓子が3か月ぶり、生鮮食品が31か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.3	—	2か月連続プラス
紳士服・洋品	1.2	0.1	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	－0.3	－0.1	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	1.1	0.0	2か月連続プラス
その他衣料品	－4.8	－0.1	3か月連続マイナス
衣料品	－0.2	0.0	3か月連続マイナス
身のまわり品	－0.4	－0.1	2か月ぶりマイナス
化粧品	4.1	0.5	42か月連続プラス＊
美術・宝飾・貴金属	－1.3	－0.1	3か月連続マイナス＊
その他雑貨	4.2	0.2	10か月連続プラス＊
雑貨	2.4	0.6	22か月連続プラス
家具	1.9	0.0	2か月連続プラス
家電	－40.1	－0.2	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	－8.5	－0.3	3か月連続マイナス
家庭用品	－9.5	－0.5	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	1.9	0.1	31か月ぶりプラス＊
菓子	2.8	0.2	3か月ぶりプラス＊
惣菜	1.6	0.1	2か月連続プラス＊
その他食料品	2.5	0.2	2か月連続プラス＊
食料品	2.3	0.5	2か月連続プラス
食堂喫茶	－5.9	－0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	－4.8	－0.1	3か月連続マイナス
その他	0.6	0.0	9か月ぶりプラス
商品券	0.2	0.0	3か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>